

発音解説

■米国発音と英国発音

本辞典では、国際音声記号(IPA)を用いて、標準的な米国・英国発音を見出し語の直後に示した。米国発音は米国中西部の広い地域で使われている「一般米語(General American)」, 英国発音は上流階級がある人々が使う、特定の地域とは結びついていない「容認発音(Received Pronunciation)」をベースとし、近年の発音変化の傾向も取り入れた表記となっている。発音記号の一覧については巻頭の発音記号表を参照のこと。

■発音表記の原則と注記

①複数の発音を持つ語は、好ましいとされる順序で示した。

〈例〉**roof** /ruːf, ruf/

②併記した発音に共通する部分がある場合は、音節単位で省略し、ハイフンで示した。〈例〉**Monday** /mʌndɪ-, di-/

③強勢の位置のみ違う場合は、音節を「-」で表し、その上に強勢を記した。〈例〉**mag-a-zine** /mægəzɪn, -zɪ-/

④音声の英米差がある場合は「|」で区切り、米音、英音の順に掲載した。

〈例〉**hot** /hɑːt| hɒt/, **knowl-edge** /nɑː(t)lɪdʒ| nɒl-, bəl-let /bælɪt| -/

⑤省略可能な要素をイタリック体で示した。ただし長音符号のみ(ː)で省略可能を表す。

⑥英米の発音が共通で、さらに英または米で別の発音もあれる場合は「+米|+英」として追加した。

〈例〉**meas-ure** /mɛʒər, +米 mɛʒər/, **plas-tic** /plæstɪk, +英 plɑːs-/

⑦見出し語内の派生語は、つづりが見出し語と共通する部分を省略し、発音も原則として省略した。

〈例〉**re-call** /rɪkɔːl/, ~**a-ble**

con-fused /kɒnfjuːzɪd/, -**fus-ed-ly** /-fjuːzɪdli/

ただし、強勢の位置が異なる場合はつづりを省略せず、強勢パターンをつづり字の上に示した。

〈例〉**fer-ti-lize** /fɜːrtɪləɪz/, **fɛr-ti-liz-a-tion**

⑧見出し語内の分離複合語は、見出し語相当語は「~」で表し、発音表記は原則として省略、強勢パターンを示した。

〈例〉**dog**の分離複合語 ~**collar**

⑨見出し語であっても、複合語等で発音表記が他所で示されている場合は、強勢をつづり字の上に付した。

〈例〉**slòw mótiòn, slòw-móvìng, slòw-pòke**

⑩日本語母語話者にとって発音上問題が起きやすい語には、〔発音注意〕(アクセント注意)などの注記を施した。また、この版では新たに、近年の英米の発音傾向、日本語学習者が気づきにくい発音など、聞き取りにも役立つ情報を◆注記にまとめた。

■母音

肺から出た呼気が口腔内で妨害を受けることのない音である。日本語には「ア・イ・ウ・エ・オ」の5つがあるのに対し、英語ではその5倍以上もの母音が認められる。特に注意を要する点を以下にまとめた。

1. 異なる記号は異なる母音の音色を表す

例えば、米音の /æ/ (**hat**), /ɑː/ (**hot**), /ʌ/ (**hut**) は日本語母語話者にはいずれも「ア」のような音に聞こえる

が、実際には音色や長さの違いがある。また、/ɪ/ (**bit**) - /iː/ (**beat**) は「イ|イー」, /ʊ/ (**pull**) - /uː/ (**pool**) は「ウ|ウー」のように長さだけで対比されがちであるが、実際は /iː/, /uː/ は /ɪ/, /ʊ/ と比べて緊張度が強く音色も異なる母音である。さらに、/ɔː/ (**law**) - /oʊ/ (**low**) はいずれも「オー」のように単一の音色を引き延ばして発音しがちであるが、/oʊ/ は出だしは /o/ で始まり、/u/ へと音色が移行する2つの音色を持つ母音である。

2. 母音には顕著な英米差がある

英米に限らず、英語の発音変種の違いは母音の音色に顕著に現れる。本辞典で示す体系的な英米差は次のとおりである。

① /ɔːr, ɪər, eər, ɑːr, ɔːr, uər, ər/ : **bird, ear, air, art, door, poor, doc-tor** (⇒3. 米音にはR音性がある)

② /ɑː/ | ɔː/ : **pot, rock, odd**

③ /æ/ | ɑː/ : **half, ask, fast**

④ /ɑː/ = /ɜː/ : **dog, soft, long**

⑤ /ɔːr | ʌr/ : **cour-age, hur-ry, wor-ry**

② /ɑː/ | ɔː/ について、米音は /ɑː/ と同一と扱い /ɑː/ と表記する辞典もある。また、英音は /ɔː/ より唇の丸めが弱いことを表すために /ɒ/ を採用する辞典もある。さらに、米音では /ɔː/, /ɑː/ を区別しない話し手もいるため、④や **law, tall** の母音(米音・英音共に /ɔː/) について、/ɑː/ を併記する辞典もある。

3. 米音にはR音性がある

bird, ear といった、つづり字の上で母音字の後に子音字 **r** が続く語(2. ①のグループ)では、米音には /r/ の音色(R音性)がある一方、英音は R音性を持たない。本書ではこれをイタリック体の /r/ で表した。

〈例〉**bird** /bɑːrd/ = /米 bɑːrd | 英 bɜːd/

ear /ɪər/ = /米 ɪər | 英 ɪə/

なお、米音の /ɔːr/, /ər/ は、/ɑː/ あるいは /ə/ から /r/ の音色へと変化するのではなく、R音性を持つ1つの母音として発音される。

R音性を発音記号 /ɜːr/ を用いて表す辞典もある。この場合、**bird, ear** の母音部はそれぞれ /ɜːr | ɜːr/, /ɪər | ɪər/ のように表される。

4. 強勢のない音節では弱母音が現れる

強勢のない音節の母音は、長さが短く音色が曖昧な弱母音になる。その特徴は次のとおりである。

①弱母音の /ə/ は、強勢があるときの母音が弱く短くなったもので、曖昧な音色を持つ。

〈例〉**a-bove** /əˈbʌv/, **rab-bit** /ræbɪt/, **al-bum** /ælbəm/ 発話のスピード、スタイル、つづり字の影響などにより音色が変化し、強勢があるときの音価を反映した音色を持つ場合もある。語末では長めに発音される。

②弱母音の /ɪ, ʊ/ は、強勢のある /i, u/ が弱く短くなった音である。

〈例〉**in-tend** /ɪntɛnd/, **Por-tu-gal** /pɔːrtʃʊgəl/

③弱母音の /ɪ, ʊ/ は、語末もしくは直後に母音が来る位置に出現する。語末では長めに発音される。

〈例〉**hap-py** /hæpi/, **re-act** /rɪækt/,

in-flu-ence /ɪnfluəns/

④弱母音の /ər/ は、強勢のある /ɔːr/ が弱く短くなった音である。語末では長めに発音される。〈例〉**din-ner** /dɪnər/

なお、本辞典では、/mi jə ɪŋ ju/、/mi jə ɪŋ ju/ は便宜上それぞれ /ju/、/ju/ に統一した。また、名詞複数形および動詞三人称単数現在の語尾は /-z/、動詞過去形、過去分詞形の語尾については /-ɪd/ とした。

■子音

肺から出た呼吸が口腔内で閉じられたり狭められたりするなどの妨害を受ける音である。母音と比べると英米差は少なく、以下の特徴が見られる。

1. 米音における /t/ のたたき音化

米音では、/t/ が次の条件で現れる場合、上歯裏側の少し後ろの歯茎を舌先でたたいて発音する、日本語のラ行音に似た音 /t/ が現れる。

●強勢を持つ母音と持たない母音の間。

〈例〉**mát-ter** /mætər/

●強勢を持つ母音と音節を構成する /l/ の間。

〈例〉**mét-al** /mɛtəl/

また、強勢を持つ母音と持たない母音の間に /nt/ が来る場合、前の /n/ の影響で /t/ が鼻音化したたき音 /t̚/ となることがある。〈例〉**print-er** /prɪntər/

なお、本辞典では /t/、/t̚/ という表記で、米音ではたき音 (/t̚/) が現れ、英音ではいずれも /t/ が現れることを示した。

2. 英米差がイタリック体で示された子音

① /t, d, n/ + /j/ の音連続において、米音では /j/ が発音されないことがある。これをイタリック体 /j/ で示した。

〈例〉**tube** /tju:b/ = 米では /tju:b/ または /tu:b/

② 米音では、つづり字 **wh** の /w/ を声帯振動なしに発音することがある。これをイタリック体 /h/ で示した。

〈例〉**wheel** /hwi:l/ = 米では /wi:l/ または /hwi:l/

3. 挿入される子音

① 子音連続 /m, n, ŋ/ + /f, θ, s, ʃ/ の間に /p, t, k/ が入り込むことがあるが、本辞典では /k/ の場合のみイタリック体を用いて示した。〈例〉**length** /leŋkθ/ (本辞典には表示なし **pam-phlet** /pæmˈflɛt/, **prince** /prɪns/)

② 以前は発音されなかったが、つづり字にあるために近年、発音されるようになっていく子音については、イタリック体で示した。

〈例〉**sug-gest** /sʌgdʒɛst/, **of-ten** /s(:)ftən/

■音節

音節は母音を中心とした音のまとまりのことで、強勢やリズムの基礎となる単位である。英語の音節には以下の特徴がある。

① 基本的に「子音 + 母音」で一音節を構成する日本語と異なり、英語では母音の前後に複数の子音連続が認められる。例えば **strict** /strɪkt/ は母音の前に 3 つ、後に 2 つの子音が続く一音節語である。

② 自然な発話では、子音連続の一部や弱母音が脱落することがあるが、これをイタリック体で示した。母音が脱落すると、音節の数も減る。

〈例〉**at-tempt** /ətɛmpt/, **cam-er-a** /kæməərə/

③ 音節の中心となるのはふつう母音であるが、語末で子音が 2 つ連続し、2 つ目の子音が /m, n, l/ のいずれかである場合、その子音が音節の中心となることがある。次のような語は、母音は 1 つしかないが、二音節を持つ。

〈例〉**cas-tle** /kæsl/

sud-den /sʌdən/, **tun-nel** /tʌnəl/

(/a/ が発音されない場合)

■強勢 (ストレス)

強勢(ストレス)は強弱が交替して現れる英語のリズムの源である。本辞典では、第一強勢 /ˈ/、第二強勢 /ˈ/、無強勢の 3 段階で表し、二音節語以上の語に強勢記号を付与した。

〈例〉**un-der-stand** /ʌndərˈstænd/

発話においては、語・複合語・句・文のような様々なレベルで音のまとまり(音韻句)が構成されるが、本辞典では原則として、音韻句 1 つにつき第一強勢を 1 つ表示した。

〈例〉**the apple of a pɛrˈsɒn's ɛɪ**, **bɛt** around the **bʊʃ**, **Mɒnɪ** dɒsˈn't **gr**ow on **tr**ees.

1. 強勢移動(ストレスシフト)

Jap-a-nese /dʒæpəˈniːz/ のように第二強勢の後に第一強勢が来る語が **mú-sic** /mjúːzɪk/ のように語頭に第一強勢を持つ語と結びつくと、英語らしいリズムを保持するために、強勢の移動が起きることがある。この場合、**-nese** から **Jap-** により強い強勢が移動して、全体では **Japanese music** となる。このような強勢移動が起きる可能性のある語について、本辞典では **Jap-a-nese** /dʒæpəˈniːz/ <2> のようなマークで示した。

2. 複合語の強勢

次のいずれかのパターンとなる。以下の [1]、[2]、[0] はそれぞれ第一強勢、第二強勢、無強勢を表す。

① [1]-[2] 〈例〉**flash-light**, **eye-opener**, **post office**

② [2]-[1] 〈例〉**super-natural**, **full-time**, **artificial intelligence**

英米の強勢パターンが異なる場合は、米のパターンを見出し語に示し、英のパターンはその後に示す。

〈例〉**round table** /英 ˈraʊnd ˈteɪbəl/, **ice cream** /+英 ˈaɪs ˈkri:m/

3. 句動詞の強勢

次のいずれかのパターンとなる。

① [2]-[1]

● [0]+[0] 〈例〉**look back**

● [0]+[0]+[0] / [0]+[0]+[0] 〈例〉**look up ... / look ... up**

目的語を明示する場合は、[2]-[2]-[1]

〈例〉**look up a word / look a word up**

ただし、目的語が代名詞の場合は、[2]-[0]-[1]

〈例〉**look it up**

② [1]-[0]

● [0]+[0]+[0] 〈例〉**look for ...**

目的語を明示する場合は、[2]-[0]-[1]

〈例〉**look for a book**

ただし、目的語が代名詞の場合は、[1]-[0]-[0]

〈例〉**look for it**

4. 文の強勢と機能語の強形・弱形

文の自然な発話においては、情報を伝える上で重要な意味を持つために強勢を受けて発音される内容語(名詞・動詞・形容詞・副詞など)、語と語の文法的な関係を示す役割を持ち強勢を受けずに発音される機能語(代名詞・前置詞・接続詞・be 動詞など)の存在が英語らしいリズムを生み出す。例えば **She visited China and Koréa** という発話では、通常、内容語である **visited**, **China**, **Korea** が強く発音され、**she** と **and** は弱く発音される。ただし、**中国と韓国**の「両方」に行ったことを強調したい場合は、**and** も強く発音される。本辞典では、この 2 種類の発音、すなわち通常の強勢を受けない場合の発音「弱形」と焦点・対照・強調のために強勢を受ける場合の発音「強形」を **and** /弱 and, ən; 強 ænd/ のように表した。